

平成 20 年度第 1 回北九州市立図書館協議会 議事録

1 会 議 名

平成 20 年度第 1 回北九州市立図書館協議会

2 議 題

(1) 「これからの図書館のあり方について」中間とりまとめ

—図書館の配置のあり方について—

(2) その他

3 開 催 日 時

平成 20 年 8 月 29 日 (金)

14 時 00 分～15 時 30 分

4 開 催 場 所

北九州市立中央図書館内

視聴覚センター第 2 会議室

5 出席者氏名 委員 (9 名 : 敬称略)

会長 棚次 奎介 (北九州市立大学基盤教育センター教授)

副会長 吉田 幸雄 (北九州市学校図書館協議会会長)

有益 節子 (北九州市私立幼稚園連盟理事)

浜崎いつ子 (北九州市婦人団体協議会理事)

長谷川英代 (北九州市 AVE の会副会長)

服部多恵子 (北九州市社会教育委員)

高井眞紀子 (BUCH 北九州 絵本とおはなしの会)

中村 尋子 (北九州市保育所連盟常任委員)

高畠登美子 (成人読書会「四季」副会長)

6 会議経過（発言内容要旨）

（1） 中間とりまとめ（図書館の配置のあり方）について

委員 アンケート結果をみると、図書館を利用する目的では借用の多いようだが、利用者が借りる本の内容がどんなものか分かるか。

事務局 市民対象のアンケート結果では、文学・小説類が約6割で、児童書、家政学という順番。図書館利用者対象のアンケート結果でも同じ傾向で、文学・小説が最も多い。小中高校生でも、約6割は文学・小説類となっている。

委員 借りる本の内容が図書館別で分かるなら、そのデータを元に、専門書を揃えた図書館や気楽に楽しめる図書を揃えた図書館など、「これからの図書館のあり方」を考えていくうえで、図書館の役割分担を考えていくことができないか。

事務局 図書館別、地域別で、借りる本の内容がどうなっているかを調べてみると、やはり、いずれの図書館も文学・小説類が最も多く利用され、過半数を占めており、図書館による差異はない。

事務局 役割分担ということでは、例えば、親子で行くなら分館、少し難しい本を探すなら地区図書館、という分け方もあると思うが、一方で、分館にない本を簡単に取り寄せることができる、という仕組みは図書館のサービス面で検討すべき課題と捉えている。

会長 図書館の役割分担というより、図書館に目的の本がなくても検索して他の図書館から簡単に借りられるというサービス面を充実させることが求められると思う。これは、今後の検討課題として今年度中の最終答申に向けて、本当に市民が利用しやすい図書館になるために考えていくべき。

ところで、中間とりまとめは、どのように公表されるのか確認したい。

事務局 審議会として図書館長へ提出した後は、市長はじめ市の内部や関係先などに配布する。また、市民の皆さまにもホームページで見ただけのようにしたい。

会 長 小倉南区への図書館設置については、北九州市立大学の図書館（以下、「大学図書館」）の活用も検討材料の一つと思うが、検討小委員会では、現在の大学図書館が利用しにくいという意見も出ている。

以前、城野への設置を望む陳情があったことから、小倉南区のどこに配置するかは論拠を明確にした方がいいのではないかと。設置場所については様々な意見があるので、この中間とりまとめで出すべきなのか慎重にしなければいけないが、曖昧にするのもどうか。現時点で、小倉南区における具体的なまちづくり計画はないと思うので、私は、どこまで実現可能性があるかという部分も視野に入れながら、より合理的な配置案というものを出すべきだと思う。

事務局 小倉南区に整備する必要はあるものの、まだ八幡西区のような熟度の高いまちづくり計画はできていない。図書館などの施設を新たに整備するときは、熟度ある計画の中に入れないとなかなか実現が難しいこともあるし、一方で既存施設としては大学図書館がある。

会 長 私は、大学図書館なら現存する施設であるし、大学側と市側で協力して施設の改善、充実を図り、市民が入りやすい環境を整えていくことの方が、実現の可能性が高いと思う。ただし、それは、大学側がどう考えるかも含めて今後の協議課題になってくるが、逆に言えば、小倉南区への図書館設置の解決策としては、可能性はそれしかないとも思う。

事務局 地域開発だけではなくて、せっかく街中にある大学図書館の機能を活用する方策もあるというのが中間とりまとめの考え方。これを大学図書館だけに絞る

と、もし実現できなかった場合、図書館を設置する可能性が消えることにも成りかねない。一方で、小倉南区のどこかにまちづくり計画があって、そこに図書館を整備するという話が出れば場所を明確に言えるが、現時点では、具体的な計画はないのが現状である。

小倉南区の場合は、選択肢として、まちづくり計画に合わせて新たに図書館を整備する考え方と、もう一つは、何も計画が出てこなければ大学図書館を活用する考え方と、並行的に考える論理構成にしている。

例えば、今後、大学側と協議して、大学図書館の活用が実現できるという話になれば、それで小倉南区の図書館整備がうまくいくことになる。その時には、大学内のことを図書館協議会で議論するのは難しいかもしれないが、教育委員会としては市民サービスへの協力を大学側に呼びかける必要がある。

会 長 図書館協議会としてそういう要望みたいなものは出せるのか。

事務局 出せるが、それは将来的に、もう少し熟度上がってからになる。

会 長 了解した。

副会長 平成 19 年度に完成した宇美町の図書館を見学に行った。驚いたのは、ワンフロアで見通しがよいこと。また、川を眺めながら読書したり、ゆったりとした雰囲気がある。何よりもいいのは駐車場が止めやすく、赤ちゃんを抱いたお母さんたちも楽に来ている。子ども向けには、自分たちで学ぶコーナーがある。小学生、中学生がどんどんやって来て、自由に調べている。今後は、学校図書館も充実していく必要があるが、地域の公立図書館が充実していくのは大事なことと思う。

委 員 今回の配置のあり方に関するとりまとめは内容的によくまとまっている。八幡西区や小倉南区で図書館配置に対する不満の割合が比較的高いなどアンケート上も明らかになっていることから、よいバックデータができたと思う。

副会長から報告があった宇美町の図書館は見たことはないが、素晴らしい図

書館に思える。他にも、苅田や水巻、佐賀県の伊万里の図書館などは、本を借りるとか調べる所ではなく、誰もが気軽に行ける場所というイメージ。

図書館の活気や、ウキウキして楽しくなるようなイメージは、行った人だけが分かる。他の新しい施設での体感を、北九州市に持ちこむためには、私たち自身が勉強する必要がある。4、5年に1回の答申なので、近くの図書館を見に行ってみたり、資料を集めて共有するなど、何らかの形で体感できる必要があると思う。そういう温度感みたいなものを協議会の委員が共有しないと、言葉に反映しにくい。

委員 八幡西区の図書館設置については、地元からいろんな要望も出てくるので、そういう擦り合わせが必要だと思う。

事務局 ご意見を伺う機会を持つとか、場合によっては、委員の皆さまにも地元の方と意見交換をしていただくことなどを考えていきたい。その場で、八幡西区の図書館の機能全てを決めていただくという話ではないが、こんな機能があった方がいいという議論はさせていただきたい。

委員 図書館協議会だけで決めるのはよくない。地元の人に関わった施設でないと地元にも愛されない。まちづくりは、そういうものだと思う。

会長 今日のところは中間とりまとめということで、図書館の配置について、まとめさせていただく。

今後は、図書館のあり方そのものを含め、具体的にどんなサービスを提供するのか、また、どんな雰囲気図書館で、どんな機能を持たせるのかなどの議論にも入りたい。

今日のところは、若干の字句修正も含め、私にご一任いただき、あらためて図書館長に提出したい。

事務局： 北九州市教育委員会生涯学習課 TEL 093-582-2385
--